

船津好明著 「^{うちなーぐち}沖繩口さびらー沖繩語を話しましょう」

声

10月

漫 画 時 評



「また開けるの「コワイ」...」 あらい太朗

独習にも使えます。基本的なことがまとめられています。

沖繩語教科書に最適

國吉 眞正 74歳

東京で、うちなーぐちを習いたいと言う方々が増えている中で、沖繩で教科書探しをしていたころがある。しかし、どれを見ても満足できる本はなかった。間違いが多く、特にうちなーぐち独特の音の表し方には問題が多い。次世代の子どもたちや他府県の方々には不適切で、教科書としては使えないことが分かった。

この時期に琉球新報社から「沖繩口さびらー沖繩語を話しましょう」(中松竹雄監修、船津好明著)という立派な教科書が出たのはありがたい。これからうちなーぐちを学習するのにテキストとして最適なものである。会話に使える豊富な例文を入れてやさしく解説しているので、初めて学ぶ方には大変良い。うちなーぐち

独特の音を適切に発音するため、独特の表記方法が工夫されている。小学校の児童にも無理なく習得できるようにになっている。うちなーぐち入門テキストとして東京の2カ所ですべて実績が出たので、皆さんにもお薦めしたい。

(神奈川県川崎市)

しまくとぅばを学ぼう

山本 芳枝 68歳

9月17日に第17回「しまくとぅば語やびら大会」が読谷村の文化センターで開催されました。わが今帰仁村は初出場(中学生1人、大人1人)ということも多く、応援団が出向きました。

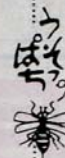
出場者は幼児と大人を含む30人余、熟練された語り口が会場を沸かせた。大人の部では唯一アメリカ人男性が流暢に語る中で、「沖繩語は島の宝、島言葉がなくなると沖繩の心もなくなる」とおっしゃったのが心に響いた。方言も今

や、沖繩の文化遺産として後世に継承しようと取り組まれています。

その昔、学校では方言禁止、教育のレベルアップを意図とし標準語励行を教訓に掲げ、方言は敬遠されました。当時、学校で方言を発するものなら「方言札」が渡され、劣等意識を抱き恥ずかしい思いを経験したものです。

時代が変われば教育方針も見直され、学校では方言を奨励し、子どもの「方言弁論大会」も盛んに行われています。方言を語れるお年寄りが元氣なうちに、若者よ「しまくとぅば」を学習しましょう。

(今帰仁村、民生委員)



密約開示逆転敗訴
今後、不都合な文書は全部捨てます。

東京高裁殿
(豊見城・だからよ)

10/12/2011 SIMPO